

# 親を学び伝える学習プログラムについて

各段階ごとに、また、エピソードごとに  
使用方法を解説します。

## プログラムメニュー

### 1 親となるための準備期プログラム（ワクワクを楽しもう！） 活用手引き p42～

- ある日の親子の会話から（親の役割ってなんだろう？）
- 静香さん（中学3年生）の日記から（親ってたいへんだ！）
- 良んと萌さんの会話から（家事・育児は女性の仕事？）
- 迷う恵梨花さん（子育てはガマンと忍耐？）
- 働かなければ大人じゃない？（働くことを考えてみよう！）

### 2 乳幼児をもつ親のプログラム（ドキドキを楽しもう！） 活用手引き p50～

- 赤ちゃんの行動や言葉をまねてみましょう！（赤ちゃんと体験を共有しましょう！）
- 赤ちゃんの感情の調子に波長を合わせてみましょう！
- 忙しいお母さん、話をきいてほしい太郎君（子どもと向き合おう！）
- ついイライラしてしまうお母さん（イライラに対処する）
- 保育園から絵本を借りてきたよ！（子どもの気持ちを受け止めよう！）

### 3 学童期の子どもをもつ親のプログラム（イキイキを楽しむ！） 活用手引き p52～

- 健太郎君とお父さん（自立の後押し！？、親の出番は！？）
- 参観日の母親の姿（規範意識が低いのは、おとな？子ども？）
- 子ども同士のけんかに親がかかわり（かかわり方を考えよう！）
- 運動会は誰の競争？（もう6年生なんだから・・・！）
- 地域とのかかわり（親も子どもも地域で育つ）

### 4 思春期の子どもをもつ親のプログラム（ハラハラを楽しむ！） 活用手引き p56～

- 由香のお手伝い（いつまでも子どもとっていら！）
- 健一の友達とのトラブル（子どもの問題に向き合おう！）
- 智也の通学（いつまでも手をかけていませんか！）
- 夕飯時の携帯電話（ゆらぐ自我に向き合う！）
- 地域デビュー（社会に踏み出す！）

# 1 「親となるための準備期学習プログラム」 手引き

## 1 プログラムの趣旨

本プログラムの主な対象は、親となるための準備段階にある中学生・高校生・大学生などです。プログラムの目的は、次の3つです。

**第1の目的は、親になるということの意味を理解してもらうことです。**

青少年は、身体的には成熟しているため、子どもを生み育てることが可能です。しかし一方で、社会的に成熟しているかという様々な問題を抱えていることもあります。10代後半や20代前半の夫婦間で児童虐待のような悲劇が生まれてしまう背景には、彼らが社会的に未熟であり、親になりきれていないという現状があるように思います。

以上のことを踏まえると、青少年に“親になるということとはそもそもどういったことなのか”ということを考えてもらうことは、非常に重要であると言えるでしょう。このような観点から、①エピソード「親の役割ってなんだろう？」では、友人とカラオケに行って帰宅が遅くなる誠と、誠の帰りを待つ母親のエピソードを取り上げ、両者でかわされる会話を考えてもらいます。このエピソードのポイントは、親に必要とされる役割には、子どもを受け入れるということだけではなく、子どもを叱るということも含まれることを若者に気づかせることにあります。近年、子どもと友だちのように接する親が増えてきており、子どもを叱ることのできない親が増加しています。このことと若者のモラルの低下とは決して無関係ではないでしょう。このような状況のなか、子どもを叱るという親の役割が今一度見直される時期にきていると思います。

②エピソード「親ってたいへんだ！」では、母親が交通事故で入院したために、家事を任せられ、パニックに陥る静香の日記を取り上げ、母親が一時退院した時の静香の日記を考えてもらいます。このエピソードのポイントは、若者に親がいることのありがたさを理解してもらうことにあります。若者たちのなかには、親が仕事をしてお金を稼いできたり、家事をしてくれたりすることを当たり前だと思っている方が少なくないと思います。しかし、本プログラムを通じて、そのことが決して当たり前ではないことに若者自身に気づいてもらい、親になるということがどういったことなのかについて考えてもらいたいと思います。

④エピソード「子育てはガマンと忍耐？」では、18歳と若くして母親となった恵梨花と、正美（恵梨花の高校時代の友人）との携帯電話でのやりとりを取り上げています。携帯電話でのやりとりとは、次のようなものです。ある日、恵梨花の携帯電話に正美が電話をかけてきます。正美は恵梨花をライブに誘いますが、恵梨花はライブに行きたいものの、子守りを夫や夫の母親にも任せることができないということから思い悩みます。そのことを察した正美は、恵梨花に「子育てって、辛くて、損なことばかりなんじゃない？」という一言を投げかけます。このエピソードのポイントは、青少年に子育てというものはときにその親に対してガマンや忍耐を強いるものであるということに気づいてもらうとともに、子育ては辛いことばかりでは決してなく、子どもの成長に直接かかわることができるという点において大きな喜びをもたらすものでもあるということに気づいてもらうことにあります。

**第2の目的は、夫婦共同で家事・育児を行うことの重要性を理解してもらうことです。**

富山県は、夫婦の共働きの多いことで知られています。平成17年の国勢調査によれば、富山県における夫婦の共働きの率は56.3%であり、全国で3位となっております。このこと自体は、「男女共同参画社会」といった点からすれば喜ばしいことかもしれません。しかし一方で、家事・育児が女性に一方的に押しつけられているという現状があるとしたならば、それはとても不幸なことです。ここでいうところの不幸には次の2つの意味があります。1つは、女性が過重労働によって身体的にも精神的にも疲弊してしまうという不幸です。もう1つは、子どもが父親とほとんどかかわることなく育ってしまうという不幸です。

以上のことを踏まえると、家事・育児は決して女性の専売特許などではなく、男性も家事・育児にかかわることによって、夫婦関係や親子関係がより豊かなものになるといえるのではないのでしょうか。このような観点から、③エピソード「家事・育児は女性の仕事？」では、恋人同士である高校生の良と萌の会話を考えてもらいます。

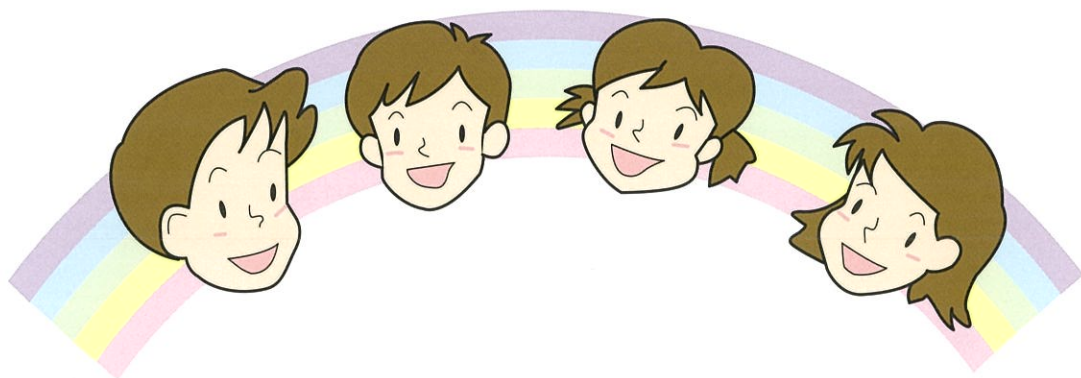
ある日の学校からの帰り道、良と萌は将来のことについて話しをします。良は両親が共働きであり寂しい思いをしたという自分自身の経験から、萌に家事・育児を求めます。プログラムでは、このような良の発言を受けた萌の発言を考えてもらうとともに、萌の発言を受けた良の発言を考えてもらいます。このエピソードのポイントは、青少年に“夫婦が協力して家事・育児にかかわることによって、夫婦関係や親子関係がより充実したものとなる”ということに気づいてもらうことにあります。

### 第3の目的は、働くことの意味を理解してもらうことです。

キャリア教育というものがあります。「キャリア教育」とは、“望ましい職業観・勤労観及び職業に対する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育”のことです。このような教育が求められるようになった背景の一つに、フリーターやニートと呼ばれる若者の増加があります。彼らのなかには、働く意思があるにもかかわらず、求人の減少のため、やむを得ず非正規雇用の地位に甘んじている若者もいます。一方で、「正規雇用より非正規雇用の方が気楽だ」「働くことが面倒くさい」などの理由から、自ら進んでフリーターやニートとなっている若者もいます。当然のことながら、問題となるのは後者の若者です。彼らは今後の日本社会を担う貴重な人材であるため、彼らの勤労意欲を高めることは日本における急務の課題といえるでしょう。

以上のことを踏まえると、青少年に“働くということはそもそもどういったことなのか”ということを考えてもらうことは、とても重要であるように思います。若者の勤労意欲の向上は、働くことの意味を問い、それに対する答えを自分なりに導き出すことから始まると考えられるからです。このような観点から、⑤エピソード「働くことを考えてみよう！」では、高校2年生の勇樹が卒業後の進路について悩む様子を取り上げます。このエピソードのポイントは、青少年に進路について悩みながら、働くことの意味や意義についてあらためて考えてもらうことにあります。

本プログラムが、富山県の将来を担う青少年が円満な家庭を築く一助となることを切に願っております。



## 2 プログラムの流れ

### (1) ①エピソード「親の役割ってなんだろう？」

グループワークの流れは、以下の通りです。

#### 1) グループ決め

3人1組のグループに分かれてもらいます。

#### 2) 親子の会話を考える

自分の家庭の様子を思い浮かべてもらい、親子の会話を考えてもらいます。

#### 3) 親子の会話のグループ内発表

各自が考えた会話については、グループ内で発表してもらいます。その際、各自が考えた会話を淡々と読み上げるのではおもしろくありません。「誠の役」、「誠の母親の役」を決め、本人になりきって会話を読んでみましょう。

お互いに誠や母親役を交代しながら、グループのメンバーが考えた会話を読み合ってみましょう。

#### 4) 親子の会話のグループごとの発表

今度は、グループ全員で新しい親子の会話を考えてもらいます。各グループで考えた会話については、みんなの前で発表してもらいます。発表前に、「誠役」の人と「誠の母親役」の人をあらかじめ決めておいてください。

1の表1 プログラム使用の流れ（① 親の役割ってなんだろう？）

時間	活動	留意点
約5分	1 グループ決め（1グループ3人）	○ファシリテーターがグループワークの内容と進め方を説明します。 ○グループは、仲の良い人ばかりで構成されないよう配慮します。
約5分	2 誠の会話と誠の母親の会話を考えてみましょう。	○会話をなかなか思い浮かばない人については、自分の家庭を想像して会話を考えてもらいます。
約10分	3 各人が考えた会話をグループ内で発表してみましょう。	○本人になりきって会話を読み上げてもらいます。
約10分	4 グループ全員で別の新しい会話を考えてみましょう。	○グループで話しあう際、特定の人ばかりが発言するのではなく、できる限り多くの人が発言できるようにファシリテーター（調整・進行役）の人は留意します。 ○意見が同じような内容に偏ってしまうことが予想されます。ファシリテーターの人は、できる限り多様な意見が出されるよう参加者をうながします。
約30分	5 各グループで考えた会話をみんなの前で発表しましょう。	○会話を発表してもらう前に、「誠役」の人と「誠の母親役」の人をあらかじめ決めておいてもらいます。

時間が許せば、以下の2つの課題にも取り組んでもらいます。

❁「発表したことを参考にし、自分が親になるとしたらどんな親になりたいか話し合ってみましょう。」

❁「あなたの親のことを思い浮かべ、親の役割について考えてみましょう。」

## (2) ②エピソード「親ってたいへんだ！」

グループワークの流れは、以下の通りです。

### 1) グループ決め

3～5人のグループに分かれてもらいます。

### 2) 母親の入院中にできることを考える

もし、静香ならお母さんが入院中になにができるのか、という点について考えてもらいます。この点について個々人で考えてもらった後に、グループ内で各自が考えたことを発表してもらいます。

### 3) 静香の日記を考える

お母さんが一時退院した時の静香の日記（10月29日）を考えてもらいます。この点について個々人で考えてもらった後に、グループ内で各自が考えたことを発表してもらいます。

### 4) 子育ての楽しさや大変さについて考える

「母親の入院中にできること」及び「静香の日記を考える」の発表を踏まえて、子育ての楽しさや大変さについて考えてもらいます。この点について個々人で考えてもらった後に、グループ内で各自が考えたことを発表してもらいます。さらに、各グループで出された考えをみんなの前で発表してもらいます。

1の表2 プログラムの流れ（② 親ってたいへんだ！）

時間	活動	留意点
約5分	1 グループ決め（1グループ3～5人）	○ファシリテーターがグループワークの内容と進め方を説明します。 ○グループは、仲のよい人ばかりで構成されないよう配慮します。
約15分	2 もし、静香なら母親が入院中になにができるのか、という点について考えてもらいます。この点について個々人で考えてもらった後に、グループ内で各自が考えたことを発表してもらいます。	
約15分	3 母親が一時退院した時の静香の日記（10月29日）を考えてもらいます。この点について個々人で考えてもらった後に、グループ内で各自が考えたことを発表してもらいます。	
約30分	4 これまでの作業や発表を踏まえて、子育ての楽しさや大変さについて考えてもらいます。この点について個々人で考えてもらった後に、グループ内で各自が考えたことを発表してもらいます。さらに、各グループで出された考えをみんなの前で発表してもらいます。	○グループで話しあう際、特定の人ばかりが発言するのではなく、できる限り多くの人が発言できるようにファシリテーターの人は留意します。 ○意見が同じような内容に偏ってしまうことが予想されます。ファシリテーターの人は、できる限り多様な意見が出されるよう参加者をうながします。
家に帰ってから	自分の親や祖父母など周囲の人に、子育ての楽しかったことや、大変だったことをインタビューしてみましよう。	○インタビューの結果についても、できれば発表する機会を設けることが、望ましいでしょう。

### (3) ③エピソード「家事・育児は女性の仕事？」

グループワークの流れは以下の通りです。

#### 1) グループ決め

3人1組のグループに分かれてもらいます。

#### 2) 良と萌の会話を考える

良萌の会話を考えてもらいます。

#### 3) 良と萌の会話のグループ内発表

各自が考えた会話については、グループ内で発表してもらいます。発表の方法については、3ページの1の図1を参照してください。

#### 4) 自分自身の両親の会話を想像する

両親であったらどういった会話になるのかを想像して書いてもらいます。それぞれが書いた会話については、グループ内で発表してもらいます。

#### 5) 性別役割分業の是非について考える

男性は外で仕事、女性は家事・育児を行うという考え方の是非についてグループ内で議論してもらいます。議論の結果については、グループごとに発表してもらいます。

1の表3 プログラム使用の流れ (③ 家事・育児は女性の仕事?)

時間	活動	留意点
約5分	1 グループ決め (1グループ3人)	○ファシリテーターがグループワークの内容と進め方を説明します。 ○グループは、仲のよい人ばかりで構成されないよう配慮します。
約5分	2 良の会話と萌の会話を考えてみましょう。	
約10分	3 各人が考えた会話をグループ内で発表してみましょう。	○本人になりきって会話を読み上げてもらいます。
約5分	4 両親の会話を想像してみましょう。	
約10分	5 想像した両親の会話をグループ内で発表しましょう。	○本人になりきって会話を読み上げてもらいます。
約30分	6 性別役割分業の是非についてグループ内で議論してもらいます。議論の結果については、グループごとに発表してもらいます。	○グループで話しあう際、特定の人ばかりが発言するのではなく、できる限り多くの人が発言できるようにファシリテーターの人は留意します。 ○意見が同じような内容に偏ってしまうことが予想されます。ファシリテーターの人は、できる限り多様な意見が出されるよう参加者をうながします。

### (4) ④エピソード「子育てはガマンと忍耐？」

グループワークの流れは以下の通りです。

#### 1) グループ決め

3人1組のグループに分かれてもらいます。

#### 2) 恵梨花と正美の会話の実演

「恵梨花の役」と「正美の役」を順次交代してもらい、3人が1回ずつ「恵梨花の役」と「正美の役」を担当するようにします。

### 3) ライブに行くかどうかを考える

もし恵梨花の立場だとしたらライブに行くかどうかということについて理由もあわせて考えてもらい、グループ間で発表してもらいます。

### 4) 家庭や子どもをもつことによって生じる生活の変化を考える

家庭や子どもをもつことによって生じる生活の変化について、想像して考えてもらいます。すでに家庭や子どもをもっている方については、自身の経験を書いてもらってもかまいません。各自の考えについては、グループ内で発表してもらいます。

### 5) 親になることの意味について考える

これまでの課題を踏まえて、親になるということの意味についてグループ内で話し合ってもらいます。話し合った結果については、グループごとに発表してもらいます。

※時間等の都合により、5) の作業ができなかった場合、4) について話し合った結果を発表してもらっても結構です。

1の表4 プログラム使用の流れ (④ 子育てはガマンと忍耐?)

時間	活動	留意点
約5分	1 グループ決め (1グループ3人)	○ファシリテーターがグループワークの内容と進め方を説明します。 ○グループは、仲のよい人ばかりで構成されないよう配慮します。
約5分	2 恵梨花と正美の会話を実演してみよう。	○本人になりきって会話を読み上げてもらいます。
約5分	3 恵梨花の立場だとしたらライブに参加するかどうかについて、理由もあわせて考えてみましょう。	
約10分	4 ライブへの参加の有無とその理由について、グループ内で発表しましょう。	
約5分	5 家庭や子どもをもつことによって生じる生活の変化について、想像して考えてみましょう。	○すでに家庭や子どもをもっている方については、自身の経験を書いてもらってもかまいません。
約10分	6 家庭や子どもをもつことによって生じる生活の変化について、グループ内で発表しましょう。	
約10分	7 これまでの作業や発表を踏まえて、親になることの意味について考えてもらいます。この点について個々人で考えてもらった後に、グループ内で各自が考えたことを発表してもらいます。さらに、各グループで出された考えをみんなの前で発表してもらいます	○グループで話しあう際、特定の人ばかりが発言するのではなく、できる限り多くの人が発言できるようにファシリテーターの人は留意します。 ○意見が同じような内容に偏ってしまうことが予想されます。ファシリテーターの人は、できる限り多様な意見が出されるよう参加者をうながします。

(5) ⑤エピソード（働くことを考えてみよう！）

グループワークの流れは以下の通りです。

1) グループ決め

3～5人のグループに分かれてもらいます。

2) エピソードを読む

各自でエピソードを読んでもらいます。

3) 現在考えている進路

現在考えている進路について記入してもらいます。

4) 現在考えている進路のグループ内発表

現在考えている進路をグループ内で発表してもらいます。

5) 働くことの目的や意義について考える

これまでの作業や発表を踏まえて、働くことの目的や意義についてグループ内で話し合ってもらいます。

話し合った結果については、グループごとに発表してもらいます。



1の表5 プログラムの流れ（⑤働くことを考えてみよう！）

時間	活動	留意点
約5分	1 グループ決め（1グループ3～5人）	○ファシリテーターがグループワークの内容と進め方を説明します。 ○グループは、仲の良い人ばかりで構成されないよう配慮します。
約5分	2 各自でエピソードを読んでみましょう。	
約5分	3 現在考えている進路をワークシートに記入しましょう。	
約10分	4 現在考えている進路をグループ内で発表しましょう。	○個々人が考えている進路を発表する際、それを聞いている人が茶化したり馬鹿にしたりすることのないよう配慮します。
約30分	5 これまでの作業や発表を踏まえて、働くことの目的や意義についてグループ内で話し合ってもらいます。話し合った結果については、グループごとに発表してもらいます。	○グループで話しあう際、特定の人ばかりが発言するのではなく、できる限り多くの人が発言できるようにファシリテーターの人は留意します。 ○意見が同じような内容に偏ってしまうことが予想されます。ファシリテーターの人は、できる限り多様な意見が出されるよう参加者をうながします。